

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	令和一年一月一日 (第一回)
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	浜松市 22130
地域名 (地域内農業集落名)	三方原地区 (別紙1のとおり)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	577.8 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	577.8 ha
② 田の面積	0 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	577.8 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	4.4 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	39.9 ha
(参考)区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	23.0 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	4.2 ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

・全体的に台地の平坦地であり、露地畑作(バレイショ、ダイコン)で利用されている。地区北側は都田地区まで続く露地果樹(みかん)、ハウス畑作で利用されている。地区北西部は都田地区、浜名地区にかけて大規模担い手による露地畑作(ブロッコリー等)の利用で利用されている。

・和地花川地区まで続く農協のバレイショ産地が形成されているが、地区南側と西側は市街地化していて、まとまった農地は少ない。地区北東側は比較的まとまった農地があるがテクノロード沿いの工場用地利用など、地区全体で住宅用、工場用ともに開発圧が極めて強く、農地確保の面でバレイショの産地維持に不安が生じている。

【地域の基礎データ(R5.1担い手アンケート)】

- ・担い手農業者74名(69歳以下又は70歳以上後継者あり69名、70歳以上後継者なし3名、回答なし2名)、農協のバレイショ産地
- ・主な営農類型:水稲作0名、露地畑作18名、ハウス畑作23名、露地果樹18名、ハウス果樹6名、茶6名、花木0名、畜産0名、その他3名

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

- ・農協や大規模担い手により形成された作物産地の維持・発展を図る。(バレイショ、ブロッコリー等)
- ・担い手間の利用調整を進め、担い手ごとにほ場の集約化を図り、各々の耕作作業の効率化を図る。まとまったほ場の確保により、将来的なドローン利用や作業の自動化などスマート農業の導入の可能性を高める。
- ・担い手耕作地の集約化に支障となっている荒廃農地の再生利用を図る。
- ・リタイア時の耕作地やハウス等の農業施設の引継ぎ方法の確立、地域への周知浸透を図る。
- ・バレイショ産地出荷の個々耕作者を一つの経営体として捉えた農地の集積・集約を行い、作物の団地化を図る。
- ・バレイショ作のリタイア地については、優先的に同作物栽培の担い手農業者へ継承を行い、作土とバレイショ産地の維持を図る。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
認定農業者等へ農地の集積を進める。担い手のリタイア時にはその耕作地を、他の担い手(同種作物を優先)に適切に継承する。集団農地では耕作地の交換等により、担い手ごとの耕作地の集約化(団地面積の拡大)を図る。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	34 %	将来の目標とする集積率	80 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
ほ場交換等により集団化(集約化)を行っている集団農地はなし → 拡大希望の担い手耕作地の隣接農地の農地集積を進める。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組
農業委員会(農業委員・推進委員)の農地利用最適化活動や農協、土地改良区による農地集積事業(定期的な貸出農地募集→利用調整の事業)により、担い手を中心に農地中間管理事業を活用した農地の利用集積を進める。集団農地では耕作地の集団化(集約化)のための耕作地交換を進める。 【農地集積・集約化の取組み】 ・茶園集積推進事業(東三方) ※茶園の集積に伴う軽微なほ場整備への助成
(2) 農地中間管理機構の活用方法
農地中間管理事業の農地利用の交換・集約機能を活用するため、まずは農地中間管理機構への貸付の拡大を図る。その後、農地中間管理事業の農地利用の交換・集約機能を活用し、担い手リタイア時の耕作地の適切な継承や、担い手個々の耕作地の段階的な集約化(集団化)を図る。
(3) 基盤整備事業への取組 (○実施中 ●計画中)
なし
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組
現存の担い手による農地利用を優先しつつ、必要に応じて地域外から多様な経営体を募り、担い手として育成していく。農業委員会の農地利用最適化活動や、県、静岡県農業振興公社、農協等と連携し、相談から農地選定など切れ目ない支援に取り組んでいく。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
なし

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他
【選択した上記の取組内容】				
③ドローン散布等、新しい技術による農作業の研究				

(別紙1)

地域計画の地区	地区	農業集落名
三方原	三方原	三方原村 2-2・一区南
三方原	三方原	三方原村 2-2・一区北 2-2
三方原	三方原	三方原村 2-2・二区
三方原	三方原	三方原村 2-2・三区
三方原	三方原	三方原村 2-2・四区南
三方原	三方原	三方原村 2-2・四区中
三方原	三方原	三方原村 2-2・四区北
三方原	三方原	三方原村 2-2・五区
三方原	三方原	三方原村 2-2・東根洗
三方原	三方原	三方原村 2-2・東曳馬野 2-2
三方原	三方原	三方原村 2-2・共栄
三方原	三方原	三方原村 2-2・愛隣
三方原	三方原	三方原村 2-2・赤松
三方原	三方原	三方原村 2-2・豊岡
三方原	三方原	三方原村 2-2・新生
三方原	三方原	三方原村 2-2・豊岡組合
三方原	三方原	三方原村 2-2・中之平
三方原	三方原	三方原村 2-2・瑞穂
三方原	三方原	三方原村 2-2・平手塚, 千代田
三方原	三方原	三方原村 2-2・大原町南
三方原	三方原	三方原村 2-2・大原町北